

## がんのリハビリテーションってなに？

2012年6月27日  
東京通信病院  
リハビリテーション科  
巷野 昌子

1

## がんのリハビリテーションとは

- がん自体の症状や治療の過程で起きてくる身体の不具合 に対して身体機能の維持や改善を目的として行うリハビリテーションのことです。
- 状況に合わせて 予防的、回復的、維持的、緩和的といった目的を持って行われます。

2

## がん自体の症状とは？

- 骨転移による骨折や痛み
- 脳転移による麻痺や意識の障害
- 直接浸潤による末梢神経障害(痛みやしびれ、麻痺)
- 悪性腫瘍随伴症候群(小脳機能障害や筋炎など)

などがあります。

3

## 治療の過程で起きてくる 身体の不具合とは？

- 化学・放射線療法や移植治療で身体を動かさないでいるうちにおこる筋力低下など。
- 乳がん術後の肩関節拘縮
- 手術や放射線治療後の手足のむくみ(リンパ浮腫)
- 頸部のがんの手術後の発声・飲み込み障害
- 開胸手術後の肺炎など
- 化学療法の副作用による末梢神経障害
- 骨・筋肉のがんの術後の手足の障害(切断など)などがあります。

4

## がんのリハビリテーションの必要性

- どんな種類のがんであれ、がん患者さんの半数以上が精神・心理的問題や痛みなどに次いで全身筋力の低下や日常生活動作の不自由さなどの問題を抱えているといわれています。
- 運動トレーニングは体力・筋力・疲労改善・生活の質改善に有効なことがあります。
- がん治療を終えたり、治療中であつたりする「がん生存者」が急激にふえ、がんと共存する人生において、機能改善や療養支援が必要となっています。

5

- 予防的リハビリテーション  
がん診断後の治療早期から始めます。  
機能障害の予防を目的とするものです。
- 回復的リハビリテーション  
身体の機能障害やそれに伴う日常生活動作困難に対して、できる限りの機能回復を図るためのものです。

6

• 維持的リハビリテーション

がんによる機能障害が進行しつつある時期に運動能力や身の回りの動作の自立度を維持・改善することを試みるものです。

道具の利用や動作のコツの習得などがあります。

• 緩和的リハビリテーション

病期が進行した時期においても 身体的、精神的、社会的にできる限り質の高い生活を送るために行うものです。

7

当院では

- 理学療法士6名、作業療法士3名、言語聴覚士2名 があります。
- 入院患者さんに対して主に維持期、緩和期のリハビリテーションを行っています。



8

リハビリテーション室 入り口



9

作業療法室



10

理学療法室



11